

参 考

防災啓発番組の考え方

《狙い》

平成 16 年の台風 23 号、昨年 8 月の台風 9 号などを受け、市では防災情報の周知・徹底に力を注いでいる。この取り組みの一つとして、FM 放送を活用して、「市民に伝わる防災情報のポイント」を伝え、自然災害による被害を防ぎ、市民の防災意識を高めたい。

なお、こうして防災情報の伝達方法や内容を蓄積していくことで、市のみならず、日本全国での防災意識の向上に資する取組としたい。

《取組の特徴》

(1) コンパクトでわかりやすい情報

1 回 5 分という手ごろなサイズで、「ワンポイント」に絞り、的確な情報を伝える。「本日のキーワード」として、テーマを明確にする。話の巧みなその分野の第一人者を選び、地元の女性キャスターの疑問に答える形で、聴取者に親近感を持って親しまれる一口メモを目指す。

(2) 地域にあわせたミニ情報

市長も登場し、必要に応じて身近な地域の話題なども織り交ぜ、「地元のなじみのキャスターが話を聞く」スタイルを取ることで、身近な情報を目指す。全国放送ではできない、地元密着型のミニ番組である。

(3) 5 回シリーズを基本として、統一感を出す。

「台風」「土砂災害」「地震」「水害」など、テーマは地域の課題に応じて選択する。放送を(月)～(金)の 5 回で、1 セットとし、大切な情報は 5 回×4 週の 20 回シリーズとするなど、何週分の放送を作るかということで、テーマの軽重をつける。「今週は台風」「今週は地震」など、聴取者に分かりやすく、なじみやすい番組とする。

なお、番組は再放送するなど、なるべく多くの市民に聞いてもらえるよう工夫する。

(4) ゲストは日本の第一人者

ゲストは、NPO 環境防災総合政策研究機構の協力を得て、気象では理事の市澤成介さん、地震は同機構環境・防災研究所長の藤井敏嗣さん、水害では理事長の河田恵昭さん、土砂災害は理事の池谷 浩さんなど、現在日本でトップクラスの方を揃える。

番組では、これらトップクラスの情報を地域に即した内容に作り直したものを聞くことができる。

(5) 集積して、全国へ提供する

求めに応じて、それぞれの地域の独自の「ミニ情報」に作り変えができるほか、書き起こして、書籍として出版することを目指し、全国の防災に役立てることができる。

《番組テーマ》

テーマは、「気象」「土砂災害」「台風」「水害」「地震」など、その地域に密着した自然災害を選択し、地域での重要度に合わせて何本シリーズにするかにより、軽重をつける。

《例としての台風》

全国どこでも課題となる台風を、例えば 1 シリーズ 5 回作成すると考える。

細かいテーマ立ては、ゲストと最終的に打ち合わせる。イメージは以下のようなものである。

「巨大台風がやってくる」

地球温暖化で、台風が強大化されると言われる。台風への地球温暖化の影響

「台風とサイクロン、ハリケーン」

同じ気象現象だが、世界のどこの地域で発生するかによって呼び名が違う

「台風の強さは風の強さ」

強大な台風などというのは、風の強さ。雨量などはそれでは測れないこと

「変化した台風情報」

正確な位置の測定を待たず、防災のため、その時間の位置の予想を伝える

「台風の進行方向右が要注意」

台風の進路の右側が特に風が強くて、被害に注意する必要がある

上記のような要領で地域に合わせて情報を作成する。話の中に、必要に応じて、豊岡市の台風被害などの地域情報を混ぜる。どのような情報を入れるかは事前の地域のキャスターとの打合せで決める。

《構成案》 「巨大台風がやってくる」

1	本日のテーマ	キャスター ・ 今日から1週間は、台風がテーマです。 ・ 豊岡では、××年の 台風の記憶が新しい ・ 本日のテーマは「巨大台風がやってくる」ゲストは 大学の さんです。	
2	ゲスト自己紹介	さん ・ 自分と台風との関係 ・ 豊岡に被害を与えた台風と自分とか、自分と豊岡のつながりなど	
3	本日のテーマ	キャスターとゲストの対談 ・ 地球温暖化で、気象現象が極端になると言われる。かつてなかった大きな台風などが発生している ・ 海水温が上がり、今までなかった北の地方で台風が発生する可能性が出てきている。	
4	豊岡と巨大台風	・ 豊岡で心配されるのは、どのような進路を辿る台風か ・ 今後の豊岡と巨大台風の備えについて	
5	まとめ	キャスター ・ 今日のテーマは、「巨大台風がやってくる」、ゲストは 大学の さんでした。 ・ 明日は台風の第二回「台風とモンスーン、ハリケーン」をお送りします。	